

仙台YMCA

みつかる。つながる。よくなっていく。

No.327.2020



# 仙台青年

SENDAI YMCA NEWS



2021年1月20日発行

公益財団法人仙台YMCA  
〒980-0822  
仙台市青葉区立町9-7  
Tel 022-222-7533  
Fax 022-222-2952  
www.sendai-ymca.org  
発行人 / 村井伸夫  
編集人 / 松島見子

## SENDAI YMCA PINK SHIRTS DAY 2021

wednesday  
February  
24th

仙台YMCAでピンクシャツデーに取り組み始めてから今年で6年目となります。年々YMCAに関わる皆様への認知度が上がって来ていることを感じます。昨年度まではピンクのシャツや小物を身に着けたり、「言われたら嬉しい言葉」を書き出したり、わかりやすく人形劇で子どもたちに伝えたりなど様々な取り組みを行って来ましたが、今年度はもう一步踏み込んで、ピンクシャツデーの日はピンクの小物を身に付けるだけではなく、周りの人にどのような関わり方をするか、相手が温かい気持ちになつたり、嬉しい気持ちになつたりしてもらえるのか、認めていくとはどのようなことなのか等、行動や言葉掛けを具体的に提案し、実際に多くの方々の実行していただけるような活動にしていきたいと思っています。

また、今年は新型コロナウイルス感染症の恐れによって私たちの生活に不安をもたらし、心ない偏見や差別を生み出しています。このような時だからこそ仙台YMCAに関わる皆さんとピンクシャツデーの活動を広げていくことがとても大切だと感じています。(仙台YMCAピンクシャツデー実行委員 高橋祐子)

### 仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわがを東北の地に広げるための活動を行います。

#### 共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをおし、共に成長できる生き方をすすめます。

#### 世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

#### 地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

#### ボランティアの働きを地域社会に広げます。

私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に仕えあう喜びの輪を広げます。

#### 子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

# 2021年2月24日(水)は YMCAピンクシャツデーです!!

2007年、カナダの学生2人から始まったいじめ反対運動です。

ある日、ピンクのポロシャツを着て登校した少年が「ホモセクシャルだ」といじめられました。それを聞いた先輩2人が50枚のピンク色のシャツを購入。インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう!」と呼びかけました。翌日の学校には、この呼びかけに賛同した数百名の生徒がピンクのシャツや小物を身に着けて登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなったそうです。このエピソードはSNSなどで世界中に広まり、今では70ヶ国以上で「反いじめ活動」として行われています。カナダで最初にこの出来事があった日が、2月の最終水曜日でした。そんなわけで、2月の最終水曜日は、いじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す日としています。現在、世界はウィルスの脅威にさらされています。新型コロナウィルスの感染拡大がもたらしたものは、健康被害だけではありません。感染症の拡大とともに、感染に対する不安や恐怖から、差別や偏見、いじめ、誹謗中傷などが大変深刻な問題として社会に広がっています。そんないまこそ、互いに高め合い・支え合える公平で豊かな、思いやりに満ちた世界の実現を目指すために、一緒に考え、アクションを起こしませんか?



## Volunteer Volunteer Volunteer



宍戸 理恵さん  
仙台市西山児童館  
ボランティア

私は「子どもが好き」でこれまでいくつかのボランティアを経験してきました。今は、西山児童館で働いている方との繋がりです。毎週児童館で活動しています。コロナ禍でオンライン授業が続く想定外の大学生生活、そこに彩りを加えてくれたのは間違いなく児童館の子ども達です。どんな時でも「りえリーダー!」と迎えてくれる元気な愛おしい笑顔に会うと疲れさえも吹き飛んでしまいます。

最近、児童館を訪れる度に私自身の気持ちに変化していることを実感しています。ボランティアを始めたばかりの頃の私は、子どもと楽しむことが目的でした。もちろん今も当初以上に楽しんでいるのですが、それに加えて、子どもが良くない行動をしたときの1人1人に合わせた注意の仕方、自分が今どう動くべきかを常に考えられるようになりました。子どもたちのいつもと違う行動や表情にも自然に気づけるようになってきました。思っていることの表現の仕方は子どもによってそれぞれ違います。表情、声、行動で表す子ども、また、表すことが苦手な子どももいます。これからもちょっとした表現から変化に気付けるようになり、声をかけていきたいと思っています。

児童館でのボランティア活動を通して、子どもと関わる仕事にやりがいを感じている自分の姿がイメージできるようになってきました。

たくさんの気付き、学びがある西山児童館で活動できるかけがえのない時間を大切にしていきたいと思っています。

維持会費 皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

(12月8日～12月31日)

### ◆一般会員

・維持会員 A会員/10,000円、B会員/20,000円、C会員/30,000円

A会員 狩野 和哉さん

仙台YMCA国際ホテル製菓専門学校に入って、自分にとって新しいことをたくさん学びました。YMCAに入る前の私は、吹奏楽に全力で取り組み音楽の世界の深さや、仲間と協力する大変さ、楽しさを学んでいました。YMCAに入学してからは、製菓衛生師になる為の勉強が始まりました。1年生時は、製菓衛生師の受験資格を得る為に、衛生、栄養、法規などの基礎知識や、製菓実習を行いました。

2年生になってからは、ボランティアに積極的に参加するようになりました。初めは、YMCA通信課程の製菓実習のお手伝いでした。いつもは教えられる側だったので、みなさんが教えて貰っている所を見るのはすごく新鮮で、自分たちがいつもしている事を違う立場から見ると、今後の自分たちの実習をより良くするためにとても役に立ちました。その他にも、オープンキャンパスのお手伝いでホテルパティシエ科の体験授業をすることになり、クレープシュゼットや皿盛りデザートを作ることもありました。



このボランティアの中で1番印象に残っている事は、寒河江市のチェリーパークホテルで行った『親子クッキング』です。私はそこに講師として呼ばれ、参加された皆様と一緒にクリスマスケーキを作りました。地域の方々やホテルの協力もあり、無事に終えることが出来ました。こんなに素晴らしい経験は、YMCAに来ていなかったら絶対になかったと思います。

このようなボランティアの経験があったからこそ、行動力や計画性、協調性が身についたと思っています。そのおかげで就職活動もスムーズに進み、無事内定も頂く事ができました。目標であった国家試験も合格し、忙しかった学校生活が終わろうとしています。私はYMCAでたくさんの事を学び、人の為に行動出来る人に成長することが出来ました。卒業してからはこの経験を生かし、人に笑顔を届けられるようにしていきます。

## 「YMCAと私」

橋本 萌枝さん

仙台YMCA国際ホテル製菓専門学校

ホテルパティシエ科2年

TOPIC

専門学校 国際おもてなし科

### 『3.11 エクスカーション』

東北の観光を語る時、東日本大震災を無くしては語れません。旅行・観光について学んでいる専門学校の留学生19名が、12月8日、石巻広域ワイズメンズクラブの皆様のご協力で、東日本大震災の被災地を訪ねることができました。今回の目的は、「まず、知ること！」です。10年前は、みんな小学生から高校生で遠く母国にいて日本の大地震についてはニュースで聞いたことがある、という程度でした。当時の新聞を時系列で見たり、写真集やYouTubeの画像を見たり、震災関連の語彙を調べたりと、事前学習をしてから臨みました。

バスで石巻に入り石巻市内の復興のようすをガイドしていただき、サンファンパウティスタ号、釣石神社、大川小学校等を見学をしました。事前学習では、YouTubeで当時の沿岸部の様子を見て言葉にならない場面もありましたが、新しくなった市街地を目の当たりにし、改めて人間の力の凄さに感動していました。

児童・教職員が大勢犠牲となった大川小学校では、当時のままの残されている校舎を見て当時から現在までの経緯をガイドしていただくと、涙する場面もありました。

また、昨年春よりお米や野菜を支援をしてくださっている農家「田伝むし」の方にもお会いでき感謝の気持ちを伝えることができました。今回のエクスカーションでは、普段の授業では経験できないことを体験することができました。外国から来て、縁があって仙台で学ぶ留学生たちが、この日の経験を国の内外で伝えていってくれることを望んでいます。

今回、ご支援いただきました石巻広域ワイズメンズクラブの皆様、当日同行していただきました皆様に心より感謝申し上げます。(報告：小林 尚美)



仙台YMCA

# 仙台青年

SENDAI YMCA NEWS

1-2



仙台YMCA総主事  
村井 伸夫

「離れていても、心はいつも共に」

新年のご挨拶を申し上げます。

日本国内でも昨年から発生した「新型コロナウイルス」の感染拡大にあつて、新しい年の始まりを迎えた喜びより、先々への不安がより強く胸に迫ってくる思いです。

仙台YMCAにおいても、「新型コロナウイルス」の感染拡大を受けて、昨年3月以降、専門学校教育事業、健康教育事業、生涯教育事業の活動停止を強いられ、学校法人の運営に危機感をもって向き合うことになりました。さらに小学校休業措置により、不要不急の外出自粛を求められた小学生を対象としたアフタースクール事業においても、その影響は小さなものではありませんでした。

同時に、幼稚園事業および保育園事業ならびに児童館・放課後児童クラブの運営は、市民生活に欠くことのできないエッセンシャルワーカーの働きを支えることに直結し、感染予防を最優先しながら事業を継続してきたことは、「仙台YMCAの使命」を実現する働きとなりました。自らが感染するリスクを負いながら

も、感染予防を徹底し業務遂行に当たったすべての職員とボランティアに感謝を申し上げます。

迎えた新年は、日本社会の変化のただ中にあります。人口減少、少子高齢化、18歳人口減少、格差社会と貧困家庭の顕在化、脱炭素社会、デジタル化の推進等に加え、「新型コロナウイルス」感染拡大にあつて、今までに生活様式からの見直しが求められるとともに、在宅勤務、リモート社会、密接を避けることなど、他者との接触を制限されることが当たり前となりました。

将来を見定めることが困難の中、仙台YMCAは全国のYMCAと共に、「はなれていても繋がっている」ことにチャレンジしてまいります。様々な方法を駆使しながら情報を発信することも受信すること、インターネットを利用し必要の度に画面を通して互いに確認しあうこと、そして他の人のために絶えず祈ること等、「身体の距離は離れていても、心はいつもあなたと共にいる」ことを実践することを、私たち仙台YMCA全体の大きな目標に掲げて新しい1年をスタートします。引き続き、仙台YMCA運動へのご理解とご支援をお願い申し上げます。



## 国際・地域協力募金 中間報告



10月のじゃがいも・かぼちゃ販売

第49回国際地域協力募金は、街頭募金が行えない中で、何ができるかを模索しながら活動を進めてきました。これまでの活動としては、仙台YMCAの各施設で十勝かぼちゃ・じゃがいもの販売、グッズ販売、梅干し販売、みかん販売、クリスマス献金などを通して、多くの方々からご協力とご支援がありました。活動が制限される中でも1,062,542円(2021.1.8現在)の心温まる募金が寄せられています。感染予防のため今年度は仙台YMCAバザー、仙台YMCAインターナショナル・チャリティーラン2020が中止となりましたが、それぞれの支援先である放課後等デイサービスYMCAみらい・YMCAきぼう、フリッパークラブ、YMCAコミュニティースクールへの支援もさせていただくことになりました。多くの皆様にご理解とご協力を頂いたことに、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。目標金額は、180万円です。年度末の3月31日まで活動を行いますので、引き続き皆様のご支援とご協力をお願いします。

(報告：黒澤 路世)